

涌蓋山・英彦山・脊振山

毎日新聞旅行

15～17日

北九州にある3つの200名山と300名山の踏破である。

涌蓋山 (わいたさん 1500m)



涌蓋山は九重連峰の北西に位置する。熊本飛行場から北上してアクセスしたので、この地方独特のゆったりした山並みを満喫できた。1000m くらいの高地には広々とした牧場が至る所にある。残念ながら紅葉には少し遅かったようであるが、初冬の枯れた美しさだっって悪くはない。300 名山にふさわしく、遠望するとすぐにわかる特徴のある山容である。気楽に登れるものと思って歩いていたが、そこまでは楽ではなかった。

この日のメンバーは女10人に男6人。前回に続いてMやさんとKギさんと一緒であり、よく会うSノさんも一緒であった。過去に行ったツ



涌蓋山山頂



久住高原コテージから見る九重連山

アーの話をしているうちに、“あ、そこなら私も行った。”というおばさんもいた。その時会っていたということはお互いに忘れていたわけだ。

現地でのガイドの尾方さんは、九州の山はどこでも案内してくれるようだ。今回も3つとも付き合ってくれた。九州のお客さんを日本アルプスへ案内することもあるようだ。カムチャッカのアバチャ山の話にも乗ってきた。いろいろ経験豊富なようだ。

この日の宿泊した久住高原コテージは、キリマンジャロに行った時のロッジのように凝った作りのリゾートホテルであり、九重連山の景色もなかなかのものであった。ここからは夜中に星空がきれいに見えるということであり、我々の仲間にもこの夜見たという人がいたが、私は見逃した。星空の美しさの感激を味わうために白内障の手術を受けたのに、何やってんだい。



久住高原コテージ

英彦山 (ひこさん 1199m)

英彦山は、その昔修験道者が訓練をするための山であったという。豊前坊から北岳へ至る道はそのような雰囲気を持ったものであったが、2時間ほどで登れてしまうので、泣きわめくほどのことはない。中岳の山頂には大きな社もあるが、現在では全くメンテナンスがなされていないようであり、錆やほころびが目立つ。月曜日であるのかかわらず登山客はケッコウ多い。この地域でのポピュラーな山であるのであろう。奉幣殿への下り路は神社の参道らしく石段状の道がつけられている。しかし1段1段の高さがきつくて、女性が着物を着て歩けるような道ではない。ブナの林としては南限ということで、前週見た氷ノ山のブナ林とは違った意味での感慨があった。



英彦山山頂の社



帰りには太宰府天満宮を經由して帰った。福岡へは仕事の関係で何回か来ているが大宰府へ来たのは初めてである。ここに祈願に来なかったからいつも試験では落ちてばかりだったのかもしれない。

この夜のホテルは一人1室であった。毎日新聞旅行もいろいろなバリエーションをそろえてくれる。



脊振山 (せぶりやま 1055m)



前日までは何とか持ちこたえていたお天気が崩れてしまった。この日の予定は、3 時間少々かけて登って、下りは頂上直下まで来ている航空自衛隊のレーダーのために作られた自動者道路を使ってバスで下りてしまうというものだった。朝食の時に、バスで下り口まで行っちゃってちょちょいで済ませようよ、という人もいた。ジョウダンだろうと思って聞いて



いたのであるが、バスに乗ってからリーダーの堀さんが、“どうしても歩いて登りたい人はいますか？”と聞いたら、だれも手を挙げる人はいなかった。ということで、往復 25 分でこの日の行程は終わった。これでも 300 名山一丁上がりだ。